



プロジェクト型保育推進事業 保育の質の向上研修
平成26年度 実施報告書



プロジェクト型保育推進事業 保育の質の向上研修

平成26年度 実施報告書

舞鶴市 / 舞鶴保育園長会

はじめに

平成27年4月から、子ども・子育て支援新制度が実施されます。報道などでは、待機児童を解消するための「量の充実」が目玉とされていますが、同制度の資料には「すべての子ども・子育て家庭を対象に、市町村が実施主体となり、教育・保育、地域の子ども・子育て支援の量及び質の充実を図る。」とあります。

質の充実を実現するため、国の予算にも「3歳児の職員配置の改善」や「職員給与の改善」、また保幼小連携の取組を推進する「小学校との接続の改善」、そして、保育士等1人当たり年間2日の研修機会を確保するための代替職員配置による「研修の充実」などが盛り込まれました。

なぜ「質」が目玉とされるのか。保育園(所)が預かりしている0歳～就学前のお子さん、いわゆる「乳幼児期」は、「生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に、身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われ、それらがその後の生活や学びの基礎になる」と保育指針に示されています。

そしてこのような重要な時期に携わる保育士には、乳幼児期の子どもの発達を見通し、保育園(所)の環境や様々な活動によりその発達を援助していくことが求められており、家庭や地域と連携しながら、保育園(所)における「教育」を担うプロとして、自己の保育を振り返り、研鑽していく必要があるとされています。

また、子育ての第一義的責任は保護者が有していますが、少子化や核家族化、遊び場の減少等、子ども・子育てを取り巻く環境が大きく変化する中、異年齢や集団での育ち・学びが体験できる保育園(所)等の役割は深化・拡大しています。

保育士からも、「現在の子どもの姿から主体性が欠けている。指示待ち、自信のなさを感じる。保育の質の向上を必要と感じる。」「最近の子ども達は言われないと動けない。言われないとできない。指示待ちの子が増えているので、自らが興味関心を持ち、心を動かし、自分で考え、行動できる子に育てていく必要があると思う。」等の感想が寄せられています。

このため、これまでも各保育園(所)において職員の研修などが行なわれてきており、各園(所)の独自性や創意工夫のある保育が展開されてきています。この各園(所)の取り組みを尊重しつつ、その一方で、すべての子どもの最善の利益のためには、各園(所)が行うべき保育の内容等に関する共通の枠組みが必要として保育指針が定められており、この共通部分についての質の向上を図ろうと、舞鶴市では平成25年度から、保育指針にもある「子どもの主体性を重視した保育・自己肯定感を育む」ため、「保小連携」「可視化・記録」「プロジェクト型保育」という3つのキーワードのもと、「保育の質の向上」と「可視化」の手法について学ぶ『プロジェクト型保育推進事業』を創設し、運営については、舞鶴保育園長会に中心となつていただき、民間保育園と公立保育所とが共に学ぶ、保育の質の向上研修を実施しています。

講師は、今年度も引き続き、鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生と神戸大学大学院准教授の北野幸子先生にお願いし、ご指導いただきました。大変お忙しい中、舞鶴までご指導にきていただいたことに深く感謝いたします。

研修は、講師の指導を受けながら、公開保育を見たあとのカンファレンスや保育内容を記録・可視化するドキュメンテーションの学び、グループワークを行うなど、ハードな内容でしたが、日々の保育業務でご多忙の中、15保育園(所)が研鑽を続けてこられました。また保育園(所)だけでなく、幼稚園・小学校教諭とも合同の研修を行い、小学校教諭が保育園(所)や幼稚園を見学したり、保幼小で連携活動のプランニングのグループワークを行うなど、保幼小連携の実践に向けた取り組みを行いました。

年間の研修を終えて全園が集まり研修の振り返りを行った報告会のアンケートには、研修の中で知識を得ると共に、自らの保育を振り返りながら、いろいろと悩み試行錯誤される保育士の姿が見られました。

「子ども主体の保育が大切だと思うが、今までの保育を変えていくとなると、いろんな面で難しさを感じる。」「子ども主体と頭では分かっているけど、実際自分の行動や声かけ、関わりが正しいのか、子どもにとって良いことなのか悩むことが多い。」

率直なご意見だと思います。今年度の研修の中で講師からいただいた言葉に

『子どもを知りたい、わかりたいという気持ちがあって保育をする。保育には唯一無二の正解があるわけではない。悩みながら探求することが保育の醍醐味である。』

『遊びや生活の中で、子どもの思いや気持ちが見えてくるかどうか。“なぜ”“どうして”という視点を持って、いつも考えることが大事。』

というものがありません。

またこのような悩みについては、自園だけでなく多くの園で取り組んだことで、

「各園の悩みや試行錯誤している様子がとても共感できた。」「同じ市内の公私保育園で取り組まれている保育やドキュメンテーションを見せていただいたり、意見交流の場で話をすることが多くでき、参考になること、勉強になったことが多くあった。」「公開保育をさせて頂け、園の振り返り、職員の学びにもなりよかった。他園の保育を見せて頂くことも参考になる。」

といった意見が寄せられました。

また一回の講演で終わることなく同じテーマについて複数回実施したことで、

「最初は聞き慣れない言葉が多く、理解が難しかった内容も、講演の度に理解が深まっていく。自分の身につくまで繰り返し学びたい。」「多数回に渡り継続して研修を受けさせていただき、一度ではわからなかったことも、日常の保育と照らし合わせて発見することができた。」

という意見がありました。

このように悩みながらも続けられたその原動力には、もう一つ、子ども主体の保育を実践してみて保育士のみなさんが感じられた子ども・保護者・保育士などの変化があるのではないのでしょうか。

「自分で考え行動できているときの子どもたちのつながりや、ワクワクドキドキしている時の表情・言葉は生き生きしている。」
「子どもの興味・関心を軸とすることで、何度も試したり、考えたり探求することから気づき、発見、学びがあるという自然な流れができる。そこに保育士がどうねらいをもち遊びを支えるかで、子どもたちの自分からの学び育ちの可能性をととも感じた。」
「自分で考えて遊ぶ子が増えてきたように思う。今まで保育士に頼る子が多かった中で、変化が出てきた。」
「子どもの積極性、満足感、集中力が増すと感じる。これが主体的な姿になっていだろうし、自己肯定感も高まると思う。」
「自分の思いをしっかりと伝えていける子が増えていっていると思う。」
「子ども達がやりたいと思うこと、興味・関心が増えて表情も豊かになった。」
「子どもとの言葉でのやりとりが増え、コミュニケーションも増えたように感じる。」
「子どもの意欲が保育士主導保育ばかりとは違うことを感じている。」
「子どもの行動力や保護者の方々の反応が変わった。」
「こちらが与えてばかりでは、子どもが考えたり見つけたりする機会を少なくしてしまうと思った。子どもが発見したことを見つけ、そこからの幅を広げて展開してあげられることが必要だと感じた。」
「保育が単発ではなく、全てがつながり、その中で子ども達の成長を見られたり、保育一つひとつを丁寧にしていくようになった。」
「子どもの中から楽しい発見、興味が引き出せる。また保育士と子どもがより一層近い存在になっていると感じている。」
「子どもの個性や発見、子どもの成長と共に自分も同じように成長し、新しい考え方等を身につけ、より保育を楽しみたいと思った。」
「興味関心、意欲は人間の土台、今だけでなくこれからの人生の上でこの部分を時間をかけ豊かに育てていくことは、これからの可能性を広げていくことになると思う。」

またドキュメンテーションの実践を通して、

「(子どもが)なぜ、その行動をとっているのか、何に興味を持っているのかなど、個々の差、個性を受け止められるようになる。今までより一人ひとりに寄り添えるようになった。」
「今まで聞き逃してしまっていたような子ども達の言葉も、一言一言丁寧に聞くようになった。そこから子ども達も発見を伝えてくれる姿が増えた。」
「子どもの発見、友達同士での気づきを、全体に伝えあうこと。保育士が悩む時は、子どもに素直に聞いてみる。予想外の答えが返ってきて、遊びが面白い方向へ行くことも多い。」
「子どもの声を待つようにした。答えを出してしまわず、考えるように声かけの内容を変えた。」
「子どもとの会話で質問したり、さらにどうしてかなという探求をすることが多くなった。共に学ぶこと(知識)も増えた。」
「保育者が悩んでいる的(ま)などを全体で共有でき、アドバイスをしたり相談できるようになった。」
「クラス担任同士が共感し合い、保育の見直しや、見通しを立てて、保育に関われるようになってきた。他のクラスの様子がわかるようになってきた。」
「教材など、子

どもの興味・関心を予測しての準備など、広範囲で考えるようになった。」

といった保育の変化や、保護者の

「“子ども”から子どもの周りのこと(環境、興味があること)を気にしたり、子どもが作ったものも出来栄より経緯をきいてそこをほめてくれるようになった。」
「ドキュメンテーションに対する感想を言ってくれる方が増えた。行事で、本番で思うような感じでも、練習では違ったということを知ることができて良かったと言われる方もおられた。」
「保育について尋ねたり、話しかけてもらえる方が増えた。」
「関わり方を“こんな風にすればいいのか”と感じておられる保護者がある。」
「子どもの育ちやねらいを知らせることにより、子どもの姿の意味を理解して頂いている。」
「子どもの話に理解が深まり、ほめたり、保育所での活動を家でもして下さったりする保護者があつた。」
といった変化に広がった例も見られました。

しかし、まだ自分の子の写真だけを探す人や、興味のない人もおられたり、忙しく帰られるため読まれないこともあります。それに対し、書き方や貼り場所を工夫したり、ドキュメンテーションと合わせて、園だよりやクラスだよりでも発信したり、行事のときにポイントを説明したりアンケートをとったりと、各園(所)で様々な取り組みをしておられます。

先ほどの研修報告会アンケートでは、「もっともつというんなドキュメンテーションに触れる機会に参加し、見ている人に伝わりやすいドキュメンテーションが書けるようにしたい。」
「何度でも研修をしていただきたい。」
「公開保育は続けてほしい。」
「保護者を巻き込んだ保育をするために、どう働きかけていくのか知りたい。」
「引き続き主体的保育、ドキュメンテーションについて研修をお願いしたい。」

また、「支援の必要とする子どもの話を聞きたい。」
「乳児の指導をお願いしたい。」
といったリクエストや、「研修の受講・記録・振り返りの時間の確保が難しい。」
といったご意見もありました。今回の新制度実施で、代替職員配置により研修機会を確保するための施策が盛り込まれましたが、日々の保育の中での省察も必要であり、このようなご意見を傾聴し、アンケートにあった「考えながら保育を進めることを保育士が楽しめたら理想的だな」という理想を現実にはできるよう、舞鶴保育園長会を中心に、研修内容について園(所)長や主任の先生等と協議しながら、よりよい研修にしていきたいと考えております。

研修事業の内容及び、研修を通して各保育園(所)で行われている取り組みについて、報告書としてまとめさせていただきましたので、ご高覧のうえ、ご支援ご指導いただきますようお願いいたします。

舞鶴市子ども未来室

目 次

はじめに	1
目次	3
平成26年度 保育の質の向上研修 講師と内容	5
講師のことば [神戸大学大学院 北野幸子 准教授]	6
[鳴門教育大学大学院 木下光二 教授]	7
実施事業一覧	9
平成26年度報告会(平成27年2月21日)	12
講演「これからの保育・乳幼児教育」	13
講師:神戸大学大学院 北野幸子 准教授	
資料:パワーポイント	14
公開保育報告	
実施報告(事務局)	17
公開保育実施園報告(ルンビニ保育園・東保育所)	21
ドキュメンテーション報告	23
ドキュメンテーションライブ指導	
ドキュメンテーション実施報告(東山保育園)	24
ドキュメンテーション実施報告(中保育所)	27
参加者アンケートより	31
平成26年度各園の取り組み	34
<永福保育園>	35
<岡田保育園>	37
<さくら保育園>	39
<平保育園>	41
<タンポポハウス>	43
<なかすじ保育園>	45
<東山保育園>	47
<八雲保育園>	49
<やまもも保育園>	51
<ルンビニ保育園>	53

＜中保育所＞	55
＜東保育所＞	57
＜東乳児保育所＞	59
＜南乳児保育所＞	61
＜西乳児保育所＞	63
研修事業紹介記事	65
「保育ナビ」 2014年12月号		
参考資料:ニュースレター	No.1	73
	No.2	75
	No.3	77
	No.4	79
	No.5	81
	No.6	83
	No.7	85